

Vol. 124 巨大スーパーイオンを相手に 健闘する地方スーパーの戦い（平成 19 年 11 月 25 日）

来年の今頃は木更津地先に巨大なイオンがオープンして砂を運ぶダンプとイオンの買い物客で木更津の市街は喧騒を極めているでしょう。

イオンの規模からすれば、木更津を中心として近隣商店街は想像以上の大激震に襲われる覚悟が必要であります。

今までも「そごう、ダイエー、ヨーカ堂、西友・・・」等との戦いの中で、地元スーパーの尾張屋、おどや、吉田屋、ふじや等は大健闘されて立派に勝ち残って参りました。

しかし、今度は今までの規模とはまったく異なる大きさは先号のちはら台ユニモでも見られる様に、200店近い名物飲食店街、生鮮店の専門店を主力として家電大手、アミューズメントと併設するレイアウトは市街地に全く新しい中心商店街を作り、他へは客は周遊させない構図であります。

こうした全国の大型店との戦いの中で、大型店の集客力を逆利用して競り勝っているスーパーがあると聞いて調べてみました。

四国高知市にスーパーでは最大級のイオンモール高知が売り場面積 64,000㎡、専門店 124 店が出店。隣接する既存スーパー等は閉店に追い込まれた跡を地元スーパー「サンシャイン」が買収。売り場面積 1,600㎡（尾張屋君津店と同じ）と規模はまさに 40 分の 1 のスーパーを新装オープンさせました。戦術は大型店では出来ない地元に着目して徹底した鮮度提供であります。先ず、近隣農家 600 人と契約して農家からの直販型を成功させ、1 日 4 回携帯メール連絡によって欠品はすぐ、畑から収穫して補充する仕組みを作り、これは「米・プリン・梅干し・惣菜等」にも広がって魚介類も産地仲買人と結んで港から直接売り場へと搬入するので市場を通す経費・時間もなくなり、市場の休みの日でも鮮魚が入荷するので、高知の名物市場として評判が高くなっている。イオン出店で閉店した前スーパーの売上 8 億円に対して今では 22 億円と言う善戦ぶりで、全国から今年は 1200 人も同業者が、視察に来ていると伝えられます。～君津の物販店の人達も見学に行きませんか！～

※別の情報ですが 1 日に「おはぎ 5000 個」を売るスーパーが仙台の秋保温泉のある山合いに「さいち」という小さなスーパーでした。私の想像ですが、秋保温泉へ来られるお客さんが「仙台萩」をイメージに秋保名物「仙台おはぎ」が生まれたのではと思いますが・・・。多い日は 2 万個にも達するそうです。不思議におはぎがよければ、消費者の心論として惣菜もまた評判となって連動して売れているそうです。鈴木市長が私の顔を見る度に「きみつブランドを作れ」と言われます。食べ物の名物ブランドは決して新しく作るものではなく、昔、昔「ののおばさんやおばあさん」が作ってくれた野良や山で食べた「季節の混ぜごはん、炒りちゃのこ、焼米、鉄砲巻、太巻寿司、佃煮、漬物、山菜類」から再発見することで充分であります。